

少年に妻を襲われた刑事が、少年を使って犯人に復讐する

## 思春鬼

作・ほら

登場人物表

長谷川（43） 少年課の刑事。

三島（29） 長谷川の後輩刑事  
課長（51） 長谷川の上司

岩瀬（27） 殺人の前科者

鈴木優子（19） オンラインサロンの代表

ミサ（40） 長谷川の妻。ひきこもり。  
翔真（14） 長谷川とミサの息子。

岩瀬の妻（19）  
飛び降り死体（24）

○工場前・冬の夕刻

ブルーシーートのまわりに警察とやじう  
まが溢れている。刑事の長谷川(43)  
が現場に入り、白手袋をしながら三島  
(29)に話しかける。

長谷川「2人目か」

三島「24歳男性。10年前連続通り魔で  
少年院送致。出所後はおとなしくしてたよう  
ですが」

長谷川「顔は？」

三島「まだ見つかってません。おそらくま  
た、いずれかの被害者宅へ届くものかと」

長谷川、飛び降り死体の頭を持ち顔を  
確認する。顔の皮が剥がされ、口はガ  
ムテープでぐるぐる巻き。

長谷川「かつての少年犯罪者が何者かに顔を  
剥がれたうえで突き落とされる、か」

三島「いえ、たぶん自殺です」  
三島が見せた死体の手足は結束バンド  
で縛られている。

長谷川「顔剥がされて、放置されたのか」

三島「1人目と、まったく同じです」

○病室

リクライニングベッドに横たわる翔真  
(14)を見舞う長谷川(43)。翔真、  
スマホで文字を打ちながら

翔真「殺人罪には問えないよねこの事件」  
長谷川、スマホを取り上げる。

翔真「返してよ盛り上がってるんだから」

長谷川「何見てるんだよ」

翔真「スレッドだよ。オンラインサロンの」  
長谷川「なんだそれ」

翔真「サークルのネット版みたいなやつ」

長谷川「またわけのわからんものを」

長谷川、翔真にスマホを返す。

翔真「母さんを襲ったやつも、やられちゃ  
えばいいのに」

長谷川、沈黙の後、  
長谷川「少年と決まったわけじゃない」

○警察署・廊下

課長(51)と長谷川が歩いている。

課長「私が翔真でもそう思うだろうな」

長谷川「俺は刑事です。見つけて、法で裁きます」

課長「翔真のドナーの方も見つからんのか」

長谷川「ええ。自分が病気なのに、母親の心配ばかりして」

課長「奥さんはまだ…」

長谷川「宅配便は女性なら受け取ってます」

課長「外には…」

長谷川「出ませんね。帰宅時の尾行に怯えて」

課長「そうか…そんなところ悪いんだが」

長谷川「なんででしょう」

課長「次の標的になりうる人間を1人につき2名体制の交代で警護する。お前はこいつを」

課長、長谷川に写真と資料を渡す。

長谷川「殺人罪、当時17歳…気が進みませんね」

課長「警察としても、3人目の被害者を出すわけにはいかない。それに…法で裁くんだろ？」

○車内・夕方

長谷川が運転し、後部座席に課長に渡された写真の男、岩瀬(27)がベンチシートを着て座っている。

岩瀬「あの、寄りたいところが」

長谷川「仕事遅刻するぞ」

岩瀬「いいんです、今日は」

○墓地

墓の前で手を合わせる岩瀬。墓石には

「青木家之墓」

長谷川 「友達か」

岩 瀬 「いえ：僕が殺めてしまった人です」

長谷川 「よく来るのか」

岩 瀬 「月命日には」

長谷川、困惑。

岩 瀬 「刑事さん、僕も顔を：剥がれてしま

うんでしょうか？」

長谷川 「そうはさせない」

○警察署内・夜

長谷川がデスクで資料を見ながら三島と話している。

三 島 「おかしいな。故郷の北海道で墓に入  
ってるって聞きましたけど。それに：」

長谷川 「なんだ？」

三 島 「被害者の名前：青木じゃないですよ」

長谷川 「なんだと：」

○岩瀬のアパート・後日夜

玄関から部屋に入る岩瀬を見送る長谷川。岩瀬の鎖骨にはハートのタトゥー。

長谷川 「今日から夜間はこの三島が担当しますんので」

三 島 「三島です。昨日までの担当と同じく  
ですね、アパート前に停めてるパトカーの  
中に朝までおりますので、ご安心ください」

岩 瀬 「ありがとうございます」

○パトカー内

三島と、助手席に長谷川もいる。イヤホンから聞こえるのは、岩瀬家の中の、岩瀬と妻の声。

妻（声） 「急に担当変わるっておかしいよ。バレたんじゃない？」

岩瀬（声） 「バレてねーよ。でもビビるよね」  
妻（声） 「なにが？」

岩瀬(声)「いや、あの人妻、夫は刑事って言うってたからさ……」

妻(声)「新しく来たのがその旦那？」

岩瀬(声)「いや、オッサンのほう。10年くらい前だからなんともいえないけど」

妻(声)「自分がヤツた人妻の旦那に守られてるとか、やばくない？ちよっとウケる」

長谷川、それを聞いてパトカーを飛び出してアパートの階段を駆け上がる。

三島「長谷川さん！」

○岩瀬のアパート・ドア前

長谷川が怒りを抑えながらドアをノックしている。

長谷川「岩瀬さん、ちよっといいですか」

岩瀬妻、遅れてドアを開けずごまかす。

妻「すいませーんちよっといまお風呂……」

長谷川「緊急事態なんです」

三島「(小声で)長谷川さん！」

三島が止めに入る。そこへ無線が入電。聞き入る三島。長谷川はノブをガチャガチャまわす。

長谷川「開けてくださいよ。ねえ？」

三島「長谷川さん！」

長谷川「なんだ！」

三島「容疑者が……逮捕されました……」

長谷川「は？どっちのだ！」

○警察署・取り調べ前室。後日

長谷川と課長が資料をもとに三島に説明している。資料には若い女性の写真。

課長「鈴木優子19歳。3人目の被害者が返り討ちにした襲撃犯の少年たちのひとりがこの女の指示だと吐いた。少年たちは全員鈴木が主催するなんとかサロンの……」

長谷川「オンラインサロンです。襲撃犯は全員サロンのメンバーだ。過去の少年犯罪を少年法だけ無効にして、ネット上で少年

少女だけで模擬裁判する。サロンの名前は思春期のきを鬼にして思春鬼」

三 島「中二病ですね：まさか襲撃犯って」

課 長「全員中学生だ。吐いたひとり以外は全員、鈴木は関係ない、自分たちだけでやったと言っているが、嘘だろう」

三 島、鈴木の写真を見る。美人。

長谷川「惚れてるんだろうな」

○取り調べ前室内

長谷川と三島が鈴木の前に座る。鈴木は就活の面接のように張り付いた笑顔。

長谷川「なんで襲わせた」

鈴 木「襲わせてません」

長谷川「血気盛んな中学生のガキが年上の美人に選ばれて頼まれたら、ほんとにやっちまうとは思わなかったのか」

鈴 木「特別扱いして、役割を与えれば彼らはなんでもする、という点は同意します」

長谷川「やらせたんだろ」

鈴 木「いいえ」

長谷川「じゃあなにをしたんだ」

鈴 木「だからなにも指示は：」

長谷川「指示じゃないなら洗脳か？」

鈴 木「違います」  
長谷川「じゃあなにしたらガキが前科者の顔を剥ぐっていうんだよ」

鈴 木「彼らと会ったのは事実です。犯行当時少年だったがゆえに正しく裁かれなかった犯罪者に制裁をあたえようという趣旨の発言で盛り上がっていたので、それだけは絶対にしてはいけないと会って直接伝えました」

長谷川「そのときあなたにももらったリスト通りの人物を、あなたにももらった資料通りのやりかたで襲ってる」

鈴 木「なんのことでしょうか」

長谷川「その資料は池袋のクラウドロッカーで共有されているそうだ」

長谷川、答えられない鈴木にスマホを見せる。

長谷川「こいつを知ってるか」

三島「長谷川さん！」

長谷川「黙れ。こいつを知ってるかと聞いているんだ」

スマホの写真は、岩瀬である。

鈴木「岩瀬誠。10年前に殺人で少年院送致」

長谷川「こいつには余罪がある。どう思う？」

鈴木「ありそうですね」

長谷川「そうじゃない、罪を償ったと思うか？殺人の前に、とある刑事の新婚の妻を尾行して、家宅侵入し、強姦したんだ。その妻はいまでも外に出られないっていうのに、こいつはいまじゃ結婚して笑って暮らしてる。こういうクズはあんたのサロンじやどういう判決になるんだ？」

鈴木「：死刑でしょうね」

長谷川「顔を剥ぐだけじゃなくてか？剥いだ皮を被害者に送り届けないのか？なんで顔を剥いて被害者に送るんだ？」

鈴木「：レシートみたいなものですよ」

三島、ぞっとする。長谷川は冷静。

長谷川「そうか」

長谷川、立ち上がりドアへ。

三島「長谷川さん、あの：」

長谷川、振り返って

長谷川「池袋のクラウドロッカーの場所は俺しか聞いていない」

鈴木、驚く。

長谷川「確認しに行くのも俺だ。ただし1週間後まで動けなくてな」

鈴木「1週間」

長谷川「1週間だ。三島、行くぞ」

三島「長谷川さん：」

長谷川、三島を連れて出ていく。閉まる扉。

○警察署前

鈴木優子が出てくる。

○池袋・クラウドロッカー・翌日

長谷川が資料を取り出して少し見て、カバンにしまう。スマホの着信音。

○長谷川自宅・後日

長谷川がスマホ片手に、あわててリビングにいる妻ミサ(40)に駆け寄る。

長谷川「翔真のドナーが見つかった」

× × ×

玄関。長谷川を見送るミサに

長谷川「じゃあ、いつてくるね。約束覚えてる？」

ミサ「そんなことより！」

長谷川「大事なことから」

ミサ「女性でも宅配便は出ない」

長谷川「そう。手術終わったら連絡する」

ミサ「いつてらっしゃい」

○車内・道中

長谷川が運転しているとスマホが鳴り、出る。

長谷川「課長すいません実は」

課長「岩瀬が殺された。また顔の皮を」

長谷川、運転しながら悩むが

長谷川「すいません、翔真のドナーが見つかって、これから手術なんです」

長谷川、電話を切ってアクセルを踏む。

○病院・廊下／手術室／長谷川家モニタージュ

病院廊下。長谷川がベンチで待つ。



な筋肉が露出している。鎖骨にハートのタトゥーが入った、岩瀬の遺体だとわかる。

終